

経営協議会(学外委員)からの意見等に対する取組状況

(平成21年5月25日 第1回～平成21年6月23日 第4回)

事 項	意 見 等	取 組 状 況
経営改革	<p>福岡教育大学は、九州及び宗像市にある単科の教員養成大学であるので、その存在意義を示してほしい。(平成21年5月29日 第2回)</p>	<p>豊富な教員スタッフを擁する「教育」に関わる総合的な教育研究機関として、学部・大学院において多彩な教員養成プログラムを提供している。平成21年度には教職大学院も設置し、現職教員の育成にも力を注いでいる。また、地元においては、地域の学校や教育委員会と組織的協力の下、連携事業をすすめている。今後さらに、九州地区の拠点校として、そして地域に根付いた大学として教育研究を展開していきたい。</p> <p>【第2期中期目標「(前文)大学の基本的な目標」】</p>
	<p>国立大学は、法人化され柔軟に対応できる権限を有することとなったので、このことを多方面にわたって生かしてほしい。(平成21年5月29日 第2回)</p>	<p>学長を中心としたガバナンスの下、法人化のメリットを活かした大学経営を目指していきたい。</p> <p>【第2期中期計画No.33「大学の基本理念を踏まえ、効果的な資源配分・活用の観点から経営戦略を策定し実行する」、No.34「大学運営の透明性・公正性・効率性・機動性を確保するため、意思決定、合意形成及び業務執行の在り方を点検し、運営組織の改善を進める」】</p>
	<p>学長のリーダーシップを十分に発揮していただき、組織や業務の見直し、コスト削減の問題を進めていただかなければならない。具体的な数値目標も大切かと思う。学長以下役員が覚悟をもって大学運営に取り組んでいただきたい。組織を有機的に動かす体制が求められている。例えば、財務部門については、専門的で堪能な者を充てて改革をさせるというのも一つの方法である。是非、学長のリーダーシップを発揮し、体制の強化を図っていただきたい。(平成21年6月23日 第4回)</p>	
	<p>第二期中期目標・中期計画は抽象的で具体性がない。そのような目標・計画では意味がないので、その下に具体的な行動計画(アクションプラン)を作って実施してもらいたい。(平成21年6月23日 第4回)</p>	<p>中期計画を達成するために各年度において年度計画及びその具体的な取り組みプランを策定して実行することとしている。</p>

事 項	意 見 等	取 組 状 況
	<p>経営協議会では、大学経営の根本に関すること、単科大学としての魅力や質の向上について、課題を掘り下げて議論したい。（平成21年6月12日 第3回）</p> <p>経営協議会は、形式的に意見を聞いているだけになっている。そのため、今回の「経営協議会の活性化に関する基本方針」の決定は非常に良い取り組みである。</p> <p>経営協議会では、外部の者にはなかなか大学内の課題が見えてこない。もっと課題を掘り起こして、経営的視点に立って議論を行いたい。（平成21年6月23日 第4回）</p> <p>経営協議会では、議題の説明等は、要点だけにしてほしい。事前に大部な資料を送りつけられても、学外委員にとっては目を通すことはできない。</p> <p>今後、実質的な議論をするためには、志願倍率、入学者の成績、学生の入学後の学力向上や成績、卒業生の進路状況調査結果等の基礎データを是非示してもらいたい。（平成21年6月23日 第4回）</p> <p>自己評価書そのものを見せられても外部委員にはよく理解できない。わかりやすい資料と説明をお願いしたい。また、専門家の中で福岡教育大学がどのように評価されているのか、評価結果を是非知らせてもらいたい。</p> <p>大学教員評価結果についても、学生による評価、研究成果等を含め匿名でもいいので出してもらいたい。</p> <p>教育と研究の成果が分かるようにコンパクトにまとめた資料を提示してもらいたい。（平成21年6月23日 第4回）</p>	<p>「経営協議会の活性化に関する基本方針」に基づき、大学経営の改善のためのご意見・提案を各委員から十分にいただけるよう経営協議会を運営していく。</p> <p>【第2期中期計画No.36「大学運営の活性化のため、経営協議会や外部有識者を活用する」】</p>

事 項	意 見 等	取 組 状 況
	<p>経費削減の観点から，出来れば数値目標を入れていただきたいが，いきなり入れることも難しいと思われるので，ISO認証取得の取組みを行ってはどうか。外部審査を受けるので，厳しいところはあるが，かなり効果的で，電気，水道，紙などの経費削減に確実に繋がる。多くの企業でも取り組まれているので参考にしていきたい。（平成21年6月23日 第4回）</p>	<p>ISO認証取得の取組みについては，研究中である。経費削減は様々な取組みを図っているところであるが，CO2対策として，原油換算で1500kl以下のエネルギー消費を目標としている。</p> <p>【第2期中期計画No.44「業務運営の効率化・合理化及び省エネルギー対策の推進等により経費を削減する」】</p>
<p>教育改革</p>	<p>教職員においても，教育大学の役割を明確にしたうえで，更なる意識改革と再構築に真剣に取り組む，教育大学としての生き残りかけた質の向上を目指していただきたい。（平成21年5月25日 第1回）</p>	<p>質の高い教員養成を最大の使命とし，教職員の意志向上を図り，常に学外の声を聞きながら教育研究の点検改善に努める。</p> <p>【第2期中期目標（教育の実施体制等に関する目標）「外部評価を踏まえた自己点検・評価を定期的実施して教育改善につなげるサイクルを確立する」】</p>
	<p>教員養成系学部の組織の見直しについて，入学定員を採用数の需要に応じて変動させるのは，如何なものか。福岡県の場合は，いずれ採用数は増えてくる。長期的な視野で検討する必要があるのではないか。（平成21年6月23日 第4回）</p>	<p>教員採用数の動向のみならず，地方国立大学としての役割と地域のニーズ，及び国の教員養成政策を踏まえ，平成25年度の組織改編を目指す。方向性については，現時点では政策については必ずしも確定的ではないので，事前に排除することなくあらゆる可能性を視野に入れて検討する。また，必要に応じて当初想定していた平成25年度という改編時期自体も見直すこととする。</p> <p>【第2期中期計画No.1「学士課程，修士課程及び専門職学位課程のそれぞれの目的に応じて入学から卒業・修了までの一貫した教育プログラムを提供するため，アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針），カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針），ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を三位一体のものとして明確化して学内外に積極的に公開するとともに，教員採用数の動向等も踏まえ，人材養成目的や教育体制についても点検・改善する」】</p>

事 項	意 見 等	取 組 状 況
	<p>親が教師をやっているから大学に入ったというような学生ではなく、本当に教師になりたいという強い意志を持った学生を育ててほしい。力のある教師を育てていただきたい。(平成21年5月29日 第2回)</p>	<p>大学の最大の使命が質の高い教員養成であることを踏まえ、教育改革に取り組む。</p> <p>【第2期中期計画No.4「教職への志を高め、教育実践力を身に付けるために、現場体験や実習を重視した教職課程プログラムを提供する」、No.5「豊かな人間形成と確かな人生設計を支援するためのキャリア教育を推進する」、No.9「教育の質の向上・保証のため、課程・コース等ごとに教育成果を検証し、養成する資質能力や教育目標、及びカリキュラムや授業内容を含めて教育内容・方法・実施体制を定期的に点検・改善する」、No.11「学部・大学院の教員養成において教育実践力の涵養を重視した教育を行うため、教育委員会や地域の学校との連携協力関係を教職課程の運営に活用し、意見・要望を自己点検・評価・改善に反映させる組織的な体制を構築する」、No.12「FD活動を一層推進し、授業改善に結びつけるための授業評価等のシステムを点検・改善するとともに、教員間の協働性を高めるために相互啓発・相互研鑽型の研修等を充実させる」】</p>
	<p>現代社会において、教師になろうという人が少なくなっており、また、教師になったとしても、諸問題に対応できず辞めていくなどの状況があるので、学問が優秀ということよりも、様々な出来事や課題に対応できる学生を育ててほしい。(平成21年5月29日 第2回)</p>	
	<p>卒業後、教員にすぐになれなくても、他で就職して働いていた経験が、教師になった時に生きてくる。教師となる「志と魂」を持った教員養成を行っていただきたい。(平成21年6月12日 第3回)</p>	
	<p>大学としては、あまり就職率の動向に左右されないで、「教師になりたいという志をもった学生」を育ててほしい。また、民間企業に勤めても「さすが福教大」といわれるような学生を育ててほしい。(平成21年6月23日 第4回)</p>	
	<p>打たれ強い教員、様々な局面で対応ができる教員の養成を行っていただきたい。そのためには、カリキュラムだけではなく、サークルやボランティア等の活動における経験が大切になってくるのではないかと。(平成21年6月12日 第3回)</p>	<p>平成20年度のサークル加入者数と加入率は、文化系サークル35団体1,036名、体育系サークル37団体840名、合計1,876名である。また、ボランティア活動に関しては、本学ボランティアシステム(VSS)登録者数が、平成20年度1,177名、平成21年度(9月まで)971名である。また、204件の依頼に応じており、学校539人、公共機関104人、福祉関係285人、その他47人、合計975人が参加している。教員採用試験志願書には、福岡県や北九州市のようにボランティア活動経験の具体的内容記入を求めている教育委員会も多いので、今までも積極的な参</p>

事 項	意 見 等	取 組 状 況
		<p>加を奨励してきました。今後も、サービス&ラーニングの精神で、積極的に多くのことを学ぶよう指導していきたい。</p> <p>【第2期中期計画No.6「ボランティア教育を充実させつつ学生ボランティア支援システム(VSS)を活用するなど、教育の一環として多様な体験活動の機会を提供する」】</p>
就職向上	<p>教職大学院について、今後の動向に危機感をもって心配している。学内におけるサポート体制や関係講座の参画はどうか。現場の教員を責任をもって送り出せるような魅力的な教職大学院にしていきたい。(平成21年6月23日 第4回)</p> <p>教員の採用率が非常に低い現状であるが、やがて回復する傾向にある。福岡県でも再雇用制度が導入され、団塊の世代の退職・再雇用の時期が完結すれば、3分の1の教員が入れ替わることになる。ピンチはチャンスと認識して行動してほしい。(平成21年5月29日 第2回)</p> <p>教員採用率の問題は、就職支援担当者の努力だけでは限度があり、どうしようもない現状にあると思われる。この問題は組織的に対応しなければ解決できないのではないかと。能力のある学生が入学しているので、しっかりとした教育を行って、優秀な教員を送り出していきたい。また、採用試験の受験者数そのものが減っていると思われるので、教員採用率を上げるためにも受験の機会を増やすよう指導していきたい。(平成21年6月23日 第4回)</p>	<p>福岡県を初め九州各県等の教員採用競争率は、依然として10倍を超える厳しい状況にある。しかし、採用率の高低にかかわらず学生に対する指導を一層充実させ、有能な教員としての資質と能力を有する学生を輩出できるよう努力する。</p> <p>教員採用に関する指導は、キャリア支援センターを中心に組織的かつ計画的な支援と指導に努めている。また、組織的に対応するために、各講座に就職担当者を選任して月1回程度の就職担当者連絡会を開催している。この会では、採用試験の出願状況や合格状況等の就職に関する情報提供、キャリア支援センターで策定している「正規教員150名アクションプラン」等の周知、各講座の就職に関する指導状況報告等を議題にしている。今後は、各講座で主体的・計画的に就職対策を推進する方策の実施等に努力したいと考えている。</p> <p>【第2期中期計画No.15「就職率・教員採用率を向上させるため、教育内容・方法・実施体制の充実とともにキャリア支援センターの業務を一層充実させる」】</p>

事 項	意 見 等	取 組 状 況
	<p>大学は、学生を預かった以上、責任をもって教育や指導をしていく必要があり、その中でも基礎をきちんと習得させることが大事なことだと考えている。就職率の問題については、失敗例の見地に立って、検証や解析する必要がある。また、学校現場の卒業生の中から優秀な教員をモデル教師として選ぶなどして、活用してはどうか。（平成21年6月23日 第4回）</p>	<p>本年度から3年間の「教員の資質能力追跡事業」（文部科学省）に応募して採択された。この事業は、本年度の4年生約100人を対象に事前調査をした後、平成22・23年度に教員に就職した者を追跡調査する。そして、本学のカリキュラムを改編していく上で必要な内容について、失敗例も含めて検討を加えていくものである。また、優秀な教員に関しては、キャリア支援センターが実施している特別講座等において、附属学校教員も含めて県内の優秀な教員に、講義や示範授業等の講師として指導していただいている。今後も、多くの人材を活用したいと考えている。</p> <p>【第2期中期計画No.4, No.9, No.11, No.15】</p>
<p>学生支援</p>	<p>学生のボランティア活動は、地域貢献になり、学生自身のキャリアアップにも直結する。そのため、就職率においても少なからず影響を及ぼすものと思われることから、ボランティアサポートシステムの積極的な運営を引き続き行っていただきたい。（平成21年5月25日 第1回）</p>	<p>ボランティアサポートシステム(VSS)については、本年度秋から、コンピュータによる一元的な管理と運用が可能になる。VSSの運用に当たっては、効果的かつ効率的で積極的な運営となるよう努力する。なお、福岡市教育委員会とは、ボランティア協定書を締結して、その充実を図っている。これは、本学学生が、「学生サポーター」として福岡市立小・中学校等に出向いて、ボランティア活動を行うものである。</p> <p>【第2期中期計画No.6】</p>
<p>社会連携</p>	<p>教員の就職率について、教育系単科大学11大学中、本学は最低である。福岡県の採用枠の絶対数が少ないという地域環境はあると思われるが、県教委や地元教育界との連携が不十分ではないか。また、県教委や市教委からの本学への信頼も不十分であると思われる。第二期においては、地元教育委員会との連携強化や信頼獲得のための抜本的な取組みが本学存続のために不可欠ではないかと思われるが、具体的にどのような取組みを行うのか。（平成21年6月23日 第4回）</p>	<p>教員就職状況は、御指摘のとおり大変厳しいのが現状である。現在、福岡県を初め福岡市、北九州市、宗像市、福津市及び春日市と協定を結んでいるが、その連携を一層強化していきたいと考えている。特に、本年7月30日には、上記の協定を締結している教育長と本学役員・事務局長との懇談会を実施して、一定の成果を上げたところである。また、本年7月16日に発足した宗像地区連携事業連絡協議会を発足させた。このような協定や連絡協議会等を広く拡充させながら、連携強化や信頼獲得のための努力を継続していく。</p>

事 項	意 見 等	取 組 状 況
	<p>地域貢献については、様々な分野で貴学に貢献いただいておりますが、それぞれの取り組みがバラバラに行われている感があり、今後は組織としてより体系的な事業を実施してほしい。大学としての社会連携が見える体制を構築してほしい。そのことにより高い評価が得られ、文部科学省等からの財政支援も受けやすくなるのではないかと。（平成21年6月23日 第4回）</p>	<p>【第2期中期計画No.11】</p> <p>社会貢献に関しては、現在、人材バンク、公開講座、授業公開について見直しを行っている。地域のニーズに応えるとともに、地域に喜んでいただける内容と方法を組織的・体系的に構築したいと考えている。そして、多くの学校や教育関係機関から評価していただけるように、内容の充実も同時に図っていきたいと考えている。</p> <p>【第2期中期計画No.24「福岡教育大学人材バンク」等を活用し、学校教育支援をはじめとする社会貢献活動を組織的に展開する」、No.26「地域社会の生涯学習ニーズに応えるとともに学校教員の研修機会を提供するため、地元自治体や教育委員会等とも連携しつつ、公開講座等のプログラムを企画・実施する」】</p>
意識改革	<p>今後は大学の統廃合が進むのではないかと危惧している。将来に対する危機意識を持って対処していただきたい。（平成21年6月12日 第3回）</p> <p>福岡教育大学は、長年にわたる伝統の中で、事務局が縁の下を支えているようなイメージがあるが、大学存続のためには、事務局が経営面でリードして頑張っていただきたい。そのためには、事務局が学長・理事等をどのようにサポートするかが大きな課題である。</p> <p>変化を好まないために意識が国の時代のままの教職員がいて、危機感が全く感じられない。大学における課題を掘り起こして、迅速に解決していかなければ進展はない。仲良しクラブでは、新しいものは生まれてこない。教員養成単科大学の存在意義を明確にし、大学の特徴を生かして、生き残りをかけてやっていただきたい。（平成21年6月23日 第4回）</p>	<p>新たな状況の中で、新たな課題にチャレンジしていきたい。</p> <p>【第2期中期目標（組織運営の改善に関する目標）「大学の基本理念に基づき教育研究を発展させるため、トップマネジメントとボトムアップの調和を確保しつつ、協働的かつ機動的な大学運営体制を確立する」】</p>